

展覧会「秀長と郡山のあゆみ」 概要

【開催趣旨】

天正 13（1585）年 9月 3日、豊臣（羽柴）秀長は、兄・秀吉とともに 5,000 人の將士を従えて郡山城に入りました。それ以降、郡山城は豊臣政権による畿内統治の拠点の一つとして整備され、政治的意義も大いに飛躍しました。秀長がつくった郡山城は、豊臣家滅亡後の幕藩体制下でも畿内統治の要所として引き継がれ、近代以降も都市の礎となり、今日の大和郡山市の土台となりました。

また、秀長が進めた郡山城下町の経済振興策は、住民による自治制度「箱本制度」へと昇華し、江戸時代を通じて受け継がれ、城下発展の基礎となりました。

秀長が兄とともに天下一統に向かう拠点の一つとなった、郡山。本展覧会では、郡山城から出土した資料を通じて城の実態と秀長の足跡を辿ります。あわせて、城やその周辺で出土した各時代の資料から地域の歩みを振り返ることで、秀長がなぜこの地を拠点としたのか、郡山に何を遺したのかを顕彰します。

【開催場所】

史跡郡山城跡 東多聞櫓 ※櫓内ギャラリー部分
大和郡山市城内町 253-2

【開催期間】

令和 8 年 1 月 22 日～令和 9 年 1 月 31 日

※会期中は原則的に無休

(令和 8 年 12 月 28 日～令和 9 年 1 月 4 日、大河ドラマ館の休館日は休館)

【開館時間】

午前 10 時から午後 5 時（最終受付・午後 4 時 30 分）

【入館料】

一般 300 円

※中学生以下、市内在住または市内に所在する高校に通学する高校生、障害者手帳をお持ちの方（介助者 1 名を含む）は無料

【図録】

展覧会解説図録 A4 カラー46P（一冊 500 円）

【展示構成】

序章 「大和大納言」秀長

郡山における秀長の事績をふりかえるとともに、大納言塚や春岳院など郡山に残る秀長ゆかりの文化財を紹介します。

★主な展示品

- 春岳院・本堂鬼瓦（正徳5（1715）年銘）、向拝鬼瓦（享保15（1730）年銘）

第1章 郡山の黎明

郡山城が築かれた西ノ京丘陵南端付近の弥生～古墳時代の遺跡や平城京に関連する資料から、原始・古代から当地域が要衝として発展した様子を紹介します。

★主な展示品

- 田中垣内遺跡 弥生土器、轍の羽口（古墳時代）
- 開古墳 馬形埴輪

第2章 郡山城前夜

郡山城築城以前に付近に営まれていた集落や、筒井城の資料から、郡山城築城前夜の地域の動向に迫ります。

★主な展示品

- 郡山城下層 瓦器、土師器
- 筒井城 鉄砲玉、輸入陶磁器
- 五輪塔覆堂 軒瓦

第3章 秀長と郡山城

豊臣政権期の郡山城に関する出土資料から、秀長が目指した城郭の姿や、それを継承した秀保・増田長盛の城郭整備の実態に迫ります。

また、彼らを支えた家臣団の拠点となった三ノ丸（五軒屋敷）の資料も紹介します。

★主な展示品

- 郡山城 金箔瓦（天守台）、輸入磁器（本丸）、刀装具（五軒屋敷）

第4章 郡山城の石垣

郡山城の特色である転用石材を中心に石垣の特徴を紹介し、近世における土木技術の実態に迫ります。

★主な展示品

○郡山城 石垣に用いられていた石仏（天守台）

第5章 近世郡山の隆盛

郡山藩時代の郡山城や墓地、城下の生業に関する資料から、豊臣期に築かれた郡山城が近世における郡山の活況の基盤となったことをふりかえります。

★主な展示品

○郡山城 家紋瓦

○西岸寺跡 鰐甲製かんざし

○郡山城（城下町） 火災にあった茶器類

【その他】

- ・展示はすべて大和郡山市の所蔵品で構成しています。
- ・3月（大河ドラマ館の開館時期ごろ）に、郡山城の地形復元CGや発掘情報を発信するデジタルサイネージを設置する予定です。
- ・8月頃に、一部の展示品を入れ替える予定です。

※上記予定については、内容が決まり次第お知らせします。